

星空の交差点

じん り い ふ た た つ き

人類、再び月へ！

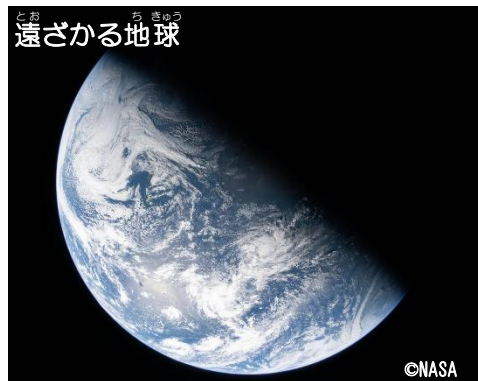
2026年4月2日、4人の宇宙飛行士を乗せたオリオン宇宙船が打ち上げられました。4月3日に地球軌道を離れて、4月7日に月の裏側を回った後、4月11日に無事地球に帰ってきました。今回のテスト飛行では月面着陸はしませんでしたでしたが、人を乗せた宇宙船が月まで行ったのは1972年のアポロ17号以来、54年ぶりです。今回は、およそ10日間にわたる月への旅の様子をご紹介します。



打ち上げのようす



宇宙船の窓から見える地球



遠ざかる地球

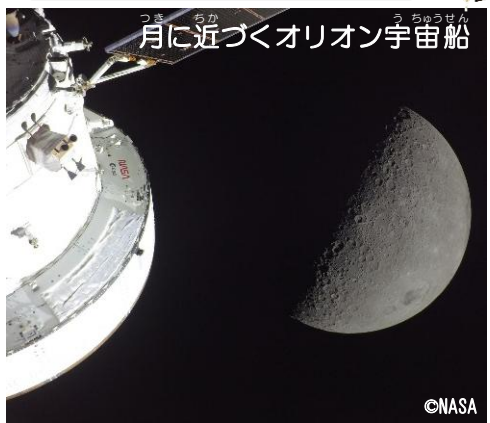
ロケットの高さは約100メートル。30階建てのビルと同くらいです！



地球が月みたいに欠けているね



地球も月も太陽の光が当たって光っているからね。



月に近づくオリオン宇宙船

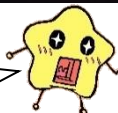


月の縁に沈む地球



近くから見た月面

月と比べると地球にはいろんな色があるね



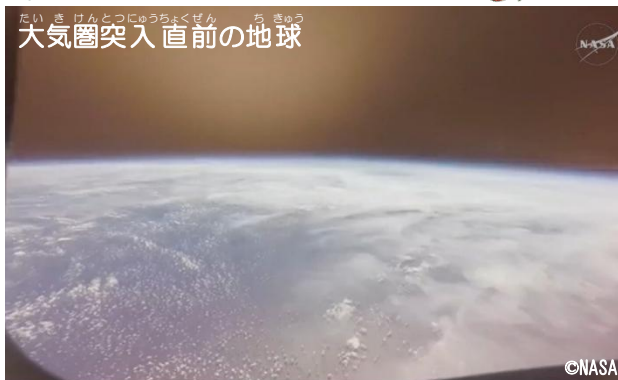
月には空気も水も無いからエンジンも育たない世界です。



オリオン宇宙船は月まで6500kmまで近づきました。



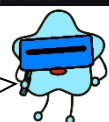
宇宙船から見た皆既日食



大気圏突入直前の地球

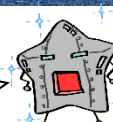


月の周りの光は太陽のコロナヤチリが光っているものです。

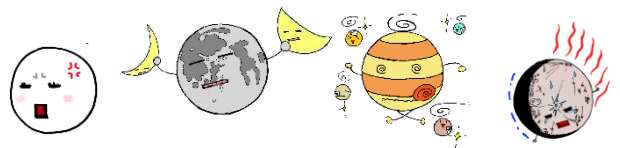


10日ぶりに地球を近くで見て、どう思ったのかなあ

無事太平洋に着水しました！オカエリナサイ!!



ほしぞら **星空のみどころ** 5月~7月



5月2日・31日 1か月に2回の満月

月はおよそ29.5日の周期で満ち欠けを繰り返しています。1か月の長さより少しだけ短いため、まれに1か月に2回満月が見えることがあります。今年の5月は2日と31日に満月が見られます。2回目の満月のことを、ブルームーンと呼ぶことがありますが、特に色が青くなるわけではなく、普通の満月です。ただ、ブルームーンが見られるのはおよそ2年に1回で、次は2028年12月です。めずらしい機会ですので、季節外れのお月見を楽しんでみてください。



6月17日ごろ 月と金星、木星、水星が並び

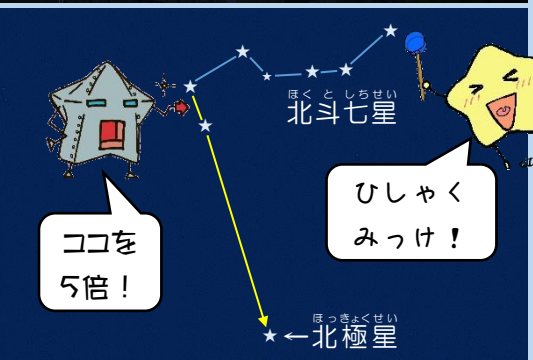
6月初めごろ、夕方の空で金星と木星が並んで輝きます。6月9日に最も近づき、その後は少しずつ離れていきます。6月15日ごろには、金星と木星の延長線上に水星が並んで見えます。太陽系の最も内側を回る水星は、太陽に近くてなかなか見ることができません。今回のように、明るい自印があれば見つけやすいでしょう。20時過ぎくらいに、西の空が開けたところで探してみてください。17日にはそこに細い月が仲間入りします。夕空の犬集谷を見てみてください。



北極星を見つけよう!

星は、東からのぼって西へ沈んでいくように見えます。これは、地球が1日に1回自転しているためです。そして、北の空を見ると、北極星を中心に、反時計回りに星が動いているように見えます。これは、地球の自転の軸が北極星の方を向いているためです。北極星はいつも真北に見えるので、北極星を見つければ、正しい方角を知ることができます。

北極星を見つけるには、まず北斗七星を見つけます。5月には、暗くなるころ頭の真上近くに柄の曲がったひしゃくの形に並んだ7個の星が見つかります。ひしゃくの水をすくう部分の2番目といちばん端の星を結んで5倍ほど伸ばしたところに北極星が見つかります。北極星がある方角が北で、右が東、左が西、後ろが南になります。南半球では北極星を見ることができないので、北半球に住んでいてよかったですね。



星空の宝石箱④9 しし座の銀河トリオ

春の夜空に見えるしし座の後ろ足にあたる部分に、3つの渦巻銀河が並んでいます。これらの銀河は実際に近いところにあり、銀河群を形成しています。右下のM65は整った形をしていますが、左下のM66は少しいびつな形をしています。上にあるNGC 3628は渦巻銀河を真横から見た形で、中央に暗黒帯という黒い筋が見えています。ここはチリやガスが濃い部分で、バックの星の光を隠しているのです。薄っぺらいハンバーガーみたいな形ですね。





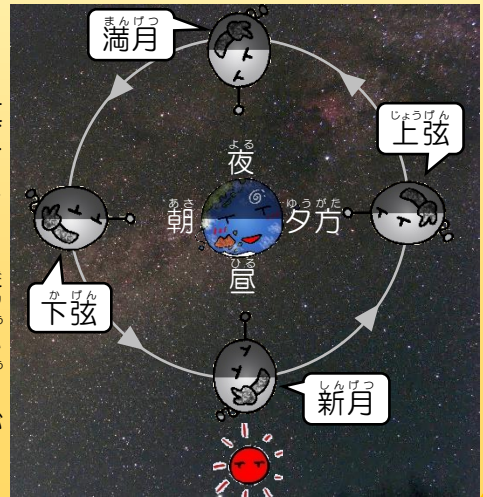
月を眺めてみませんか？～月の形と見える時刻～

「菜の花や 月は東に 日は西に」これは、与謝蕪村の有名な句ですが、ここに出てくる月はどんな形かわかりますか？そう、満月です。月が太陽に照らされながら地球の周りを回っていて満ち欠けをしていることはご存じだと思います。実は、月は形によって、見える時刻と方角が決まっているのです。

月が太陽と同じ方向にある時が新月です。太陽と一緒に月も沈むので夜に月は見えません。新月から3日後には、夕方の西空に、細く右下が輝く三日月が見え、太陽を追いかけるように沈んでいきます。新月から7日ほどで月は太陽から90度東にやってきます。夕方、南にある月を西から太陽が照らしているので、右半分が光る半月になります。弓型の半月が弦を上にして沈むので上弦の月といいます。上弦の月は真夜中に沈みます。その後、月は次第に太陽から東に離れながら、形もふっくらしてきます。そして新月から約15日後、太陽の反対側に月がやってきた日が満月です。さきの蕪村の「菜の花」の句のとおり、満月は夕方に東からのぼり、明け方に西に沈みます。

満月を過ぎると、月がのぼってくる時間がだんだん遅くなっていくので、夕方に月は見えなくなります。新月からおおよそ22日後には、真夜中に左半分が光る下弦の月がのぼってきて、明け方に真南にやってきます。さらに何日かすると、夜明け前の南東の空に、三日月をさかさにした形の細い月が見られます。そしてやがて新月へと戻ります。

旧暦は、新月の日を一日として日付を決めていました。七月七日の七夕の日はいつも半月で、真夜中に月が沈んで天の川が見えてきます。忠臣蔵の討ち入りの日(十二月十四日)はほぼ満月の明るい月が、一晩中辺りを照らしていたということもわかります。月の形と見える時間がわかると、昔の物語の味わいをもっと深くなるかもしれませんね。



へそ公園周辺の植物

ショウジョウバカマ(シュロソウ科)

ショウジョウバカマは北海道から九州まで分布していて、湿った林などでよく見られます。4月から6月ごろまで、ピンクや紫のほか、白や黄色、薄緑色など様々な色の花を咲かせます。狸々は、赤い顔をした伝説の生き物で、花の色を赤い顔に、丸く広がる葉を袴に見立てて名前が付けられたのだそうです。



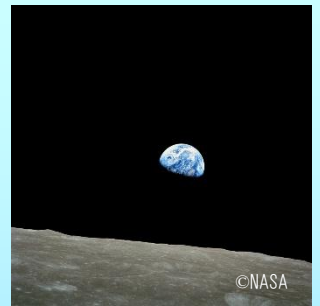
七ヶ崎経緯度地球科学館「テラトーム」

☆月クイズ☆

第1問

初めて人が月を周回したのはいつ？

- ①1959年(ルナ2号)
- ②1968年(アポロ8号)
- ③1969年(アポロ11号)



第2問

人が月まで行くのは今回で何回目？

- ①5回目
- ②10回目
- ③12回目

第3問

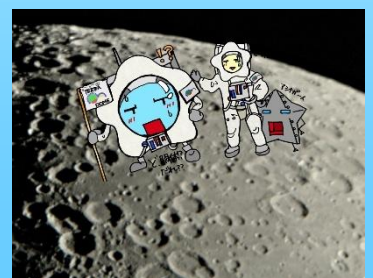
月の裏側で見つかったのはどれ？

- ①宇宙人の基地
- ②火山
- ③巨大クレーター

第4問

月で本当に飛ばされたのはどれ？

- ①サッカーボール
- ②野球ボール
- ③ゴルフボール



イベント情報

- 開館時間 10:00～18:00
- 休館日：月曜日・祝日(土日祝は開館)・12/29～1/3
- 入館料：大人400円・シルバー300円・学生200円・小中100円

輪ゴムであそぼう展

輪ゴムを使ったいろいろな展示物で遊びながらふしぎなゴムの性質をさぐってみよう！



- ★6月28日(日)まで
- ★場所：テラ・ドーム企画展示室



蝶の庭観察会

蝶の庭で蝶や幼虫を観察しよう！



看板が
できました！



- ★5月5日(祝)10:00～12:00
- ★場所：テラ・ドーム玄関前
- ★西脇多可自然探索グループ

苔の観察会

へそ公園にはどんな苔が生えているのかな？苔の専門家と観察しよう！



- ★5月の土曜、日曜(5月3日を除く)
- 11:00～と14:30～ ※参加無料
- ★主催：兵庫テラリウム協会



木のからくりおもちゃ展

木のからくりおもちゃで遊びながらしくみを考えてみよう！



- ★7月18日(土)～11月3日(祝)
- ★場所：テラ・ドーム企画展示室
- ★協力：水谷守男さん



自然写真シリーズ展Vol.31

- ★7月1日(水)～8月30日(日)
- ★協力：西脇市動植物生態調査研究グループ

土曜ちょこっとサイエンス

内容は週ごとに変わります。簡単な工作をしながら科学の不思議を体感しよう！



- ★毎週土曜日 11:30～・13:30～・15:30～
- ★定員は各回25名程度です。

子ども科学教室

身近な材料を使った実験や工作で科学のふしぎを体験しよう！入館料だけでご参加いただけます。



日曜・祝日 11:30～・13:30～・15:30～

- 4/29・5/3 きれいなさくまをつくろう
- 5/4・5 折り紙で地球をつくろう
- 5/6・10 トコトコップをつくろう
- 5/17・24 ぐるぐるボールをつくろう
- 5/31・6/7 ぴよぴよがえるをつくろう
- 6/14・21 ゴム鉄砲であそぼう
- 6/28・7/5 虹スコープをつくろう
- 7/12・19 UVチェッカーをつくろう
- 7/20・26 ふしぎ!?ういたりしずんだり

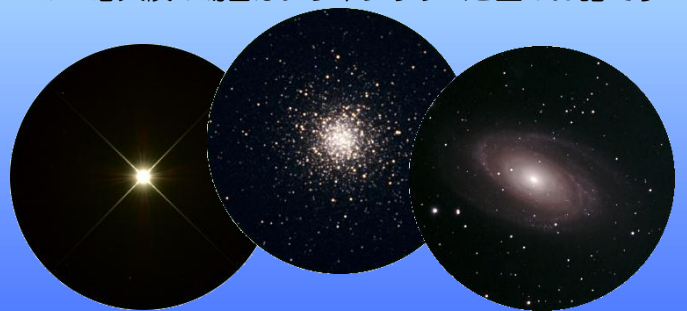
夜のスターウォッチング

81cm大型反射望遠鏡でいろいろな星を見てみよう！



- ★土曜日・連休中の休前日 19:30～21:00
- ★参加費：1人200円(幼児は無料)
- ★定員：25名(先着順)
- ★要電話予約(当日でも可)

※悪天候の場合はプラネタリウムと星のお話です



みどころ：アークトゥルス、連星アルギエバ、球状星団M3、渦巻銀河M81など

テラ・ドーム通信「星空の交差点」

2026年5月号

にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

TEL 0795-23-2772

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/terra/>